

たけはら美術館特別展 没後50年 池田勇人展

# 日本を変えた男



竹原市出身の池田勇人は第58～60代内閣総理大臣に就任し、経済で国民を救う「<sup>けいこくさいみん</sup>経国済民」を政治姿勢に、所得倍増計画を政策の中心に掲げ、勤勉で優秀な日本国民に希望と自信を与え、国民のやる気を引き出しながら、高度経済成長を成し遂げました。この経済成長により、日本は東京オリンピックに象徴されるように『世界の日本』として認められようになったのです。この偉業を成し遂げた池田の政治手腕は高く評価されています。

池田勇人没後50年目の節目の今年、池田が残した言葉に焦点をあて、彼の政治信念・功績・人柄を紹介し、池田の愛用品やコレクションにより彼の人生の足跡を辿ります。

## 池田勇人が残した言葉

**「日本と外国の橋渡しになる」** -幼少期-  
 明治32年、広島県豊田郡吉名村(現広島県竹原市吉名町)の旧家・池田家の七人目の末っ子として生まれた勇人。父の「国のためになる人間になってほしい」という願いのもと、勇人はのびのびと成長します。母に「将来何になるつもりか」と聞かれ、「日本と外国の橋渡しになる」と答えました。小さな体にすでに大きな志が宿っていたのです。

**「俺は一度死んできた。怖いものは何もない」** -官僚時代-  
 大蔵省に就職した池田は、伯爵家の娘直子と結婚します。しかし大病で職を失い、さらに愛妻も亡くし、人生に絶望します。しかし家族や後に妻となる大貫満枝は、池田の回復を祈り献身的に看護します。そんな池田に少しずつ回復の兆しが…。

**「経済のことは池田にお任せください」** -総理大臣時代-  
 昭和35年、池田はついに総理大臣の椅子を手に入れます。「経国済民」という政治姿勢を貫き「所得倍増計画」を推し進め、社会保障の拡充・中小企業の近代化などを実行し、「東洋の奇跡」と呼ばれる経済成長を成し遂げます。



幼少期(家族写真-右から3番目が勇人)



大蔵官僚時代



総理大臣時代(ケネディ大統領との会談)



官邸硯箱



灰皿・煙草入れ



総理大臣時代(旧友 竹鶴政孝と)



### [交通案内]

- ◎JR呉線竹原駅から徒歩5分
- ◎広島バスセンター・JR広島駅から芸陽バスかぐや姫号で約70分  
バス停「竹原中央」下車。徒歩1分
- ◎山陽自動車道河内ICから車で20分
- ◎広島空港から車で25分  
無料駐車場がございます

〒725-0026  
 広島県竹原市中央五丁目6-28  
 TEL/FAX 0846-22-3558  
<http://www.city.takehara.lg.jp/>

たけはら美術館